

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300091		
法人名	社会福祉法人 豊明会		
事業所名	グループホーム藤の木		
所在地	宮城県栗原市金成金生11番地		
自己評価作成日	平成25年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0491300091-00&PrefCd=04&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成25年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自事業所は田んぼに囲まれ自然豊かであり、地域に昔から住み慣れた方々に利用して頂いております。季節の恒例行事の他にも、毎月外出や慰問等のイベントを開催しております。また、旬の食材や行事食をメニューへ加え、食事の楽しみも工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームなどを経営する豊明会が2012年8月に開設した。季節ごとの外出行事が多彩で家族にも喜ばれている。施設への知人・家族・友人の訪問も多く関係継続の支援に努めている。職員のチームワークが良く、利用者の個人的買物の要望にも気軽に対応するなど信頼関係が築かれている。管理者と職員は外部研修や資格取得に熱心で介護力の向上に努めている。開設以来1年経過したばかりであるが、地域との協力関係を深めて利用者の地域生活の継続支援に反映していこうとする姿勢がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム藤の木 ）「ユニット名 蔵王 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに基本理念を掲示している。	2012年8月開所以来、自由意思の尊重、楽しく安心して暮らせる家庭的な環境の提供などを掲げた法人の理念を、理事長とも折に触れ確認する。職員は理念を念頭にケアに活かすよう努めている。	地域生活の継続など地域密着型サービスの意義を踏まえてグループホーム独自の理念を職員全員で話し合って作り上げることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や地区の学校行事へ参加している。	利用者が町内会員登録している地区の区長より「お茶っこ会」などの行事案内があり参加している。小学校からも運動会の案内があり玉入れに参加した。ホームとして町内会への加入を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて、認知症の人の理解や支援方法を伝える活動は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進委員会を開催し、施設の運営内容について報告を行なっている。	市職員、地域包括職員、区長、民生委員、家族、利用者の参加で隔月開催している。ホームの運営状況、行事案内などを報告し、意見交換している。地域行事へのお誘いが増えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隔月で運営推進会議を開催しており、市の担当者にも出席して頂き、情報提供やご意見を頂いている。	市担当職員は、運営推進会議に出席して情報交換している。講座の講師など市への協力もしていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない支援を実施している。	身体拘束など行動を制限する行為を行わないケアに努め、見守りしたり、散歩などに同行している。ホームに広い庭があり、気軽に散歩出来る環境にある。職員は内部研修を行い、近隣の理解と協力の大切さを痛感している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者について内部研修を行い、虐待についても学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修をする事により、職員の権利擁護等についての知識を深め、利用者の権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時にはご家族様へ説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	調査アンケートを実施し、意見の反映に努めている。	年1回家族アンケートを実施し、意見・要望をスタッフ会議で検討し運営に活かしている。要望により「藤の木だより」を月1回発行し、ホームの様子を伝えている。運営推進会議や家族の来所時などにも要望や意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、職員が参加しての会議を行い意見交換を行なっている。	全体会議で意見交換し、介護日誌の書式の改善などを実践に活かしている。会議録の回覧で全職員の意見が反映されるように工夫している。管理者は職員の資格取得にも積極的に介護の質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パーソナルレポートや面談が定期的に行われ、職員の勤務状況が把握されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修へ参加する機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流や、外部研修での交流の場がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用前にご本人様の意思を伺い、要望に沿えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用前にご家族様の意思を伺い、要望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の意思を踏まえ、必要とされているサービスを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人との関係を基本として、関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙をお送りしたり、面会時に本人様の状態をお伝えし、情報の共有を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を踏まえ支援を行なっている。また、家族様や親戚、友人等の面会がある。	町内会行事への参加や自宅、美容院への外出、買い物などの支援をしている。家族・友人・知人の訪問も比較的多く関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士の関わり合いが築けている。また、職員が仲介へ入り声掛けを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後も必要に応じて相談、支援でいるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を確認し、サービスへ反映できるよう努めている。	利用者が希望を出し易い雰囲気を作っており、ラーメンやウナギを食べたいという外食の要望にも応えている。また、表情や動作などで意向を把握し、ケアカンファレンスで検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの情報を集め、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌、ケース記録、申し送りノートの記録、口頭にて申し送りで現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様の意思を伺い、また、ケアカンファレンスで他の職員の意見を介護計画へ反映し作成している。	介護計画は、半年に1回、ケアカンファレンスで検討し見直し家族も確認している。毎月、各自の状況報告を「藤の木だより」、請求書、領収書と共に郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入し、情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の買い物の実践、家族様と連絡を取り、必要であれば通院の支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや学校行事へ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の同意を受けかかりつけ医へ定期的に受診されている。	ほとんどが協力医療機関の受診となっているが、希望するかかりつけ医受診には、情報提供書を準備し家族が同行している。受診結果、薬の状況、次回受診日など家族と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所様の健康状態の把握を行い、かかりつけ医への相談を行い、指示を受けながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に通院や回診を行い、病院関係者と情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期や重度化した際の対応について話し合いをしているが書面としては残していない。また、重度化した際にご家族様から意向を聞き取りし対応する様にしている。	看取りの経験はまだない。家族と話し合いの上、関連施設や協力病院などへつなげる対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団指導の元で避難訓練を行なっている。	避難訓練は、年2回夜間想定も含めて実施している。地域住民の参加協力までには至っていない。火災報知機、スプリンクラーは、完備されている。設備の点検は、年2回業者が実施し、訓練時、職員による使用方法の確認もしている。	火災、風水害、地震など緊急対応時マニュアルを整備し、訓練を重ねることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声掛けを行なっている。個人情報守秘義務の元で、管理するよう職員で周知している。	プライバシー保持の方針を掲示し、入室の際には、許可を得て同行の上入室している。一人ひとりの人格を尊重し名前には「さん」をつけて声がけしている。プライバシー保持の職員研修を計画している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動や買い物等で自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者様の体調や気分に合わせて過ぎて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望を踏まえ、季節や場面に合った洋服選びを支援している。また、定期的に訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を反映しつつ、季節やイベント毎に食事の内容に楽しみを持って頂けるよう努めている。また、食器の後片付けやテーブル拭き等行なって頂いている。	メニューは利用者の希望を取り入れ管理栄養士が作成し、食事の準備・片づけに利用者も参加している。和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。塩分制限のある方には別メニューで対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスを考慮し献立を作成している。また、食事制限がある入所者様へはメニューを変更し、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の指導を受け、一人ひとりに合ったブラシを使い残存機能を活かした口腔ケアが行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄を声掛けている。	ほぼ全員自立している。排泄記録をもとに声掛けしトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や適度な運動を働き掛けている。必要であれば医師へ相談し、下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の時間に合わせた回数や時間で入浴の予定を立て、実施しているが、その日の体調や気分に合わせて支援している。	週2回の入浴を基本にしている。各自の入浴予定表を掲示し確認し合っている。一番風呂や熱めの風呂希望などにも対応している。菖蒲湯やゆず湯なども喜ばれている。日帰り温泉入浴の希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や、その時の体調、気分に合わせて活動を声掛けている。また、安眠に繋がる照明や室温になるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報をケース記録へ記録し、個人の薬手帳を作成し把握している。また、内服時は職員が手渡し見守りを行い内服を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月イベントを計画し参加して頂いている。また、洗濯や料理等役割を持って活動出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った場所へ外出出来るように努めている。	年間行事計画をもとに伊豆沼の「蓮の花」観賞、巖美溪見物、カッコウだんごを食べるなど外出を楽しみ、家族にも喜ばれている。スーパーやコンビニなどへの買い物、近所への散歩などの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様や本人様の意思を踏まえ、能力に応じて本人様に金銭に管理をして頂いている。また、出納帳を個々で作成し管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望を受け、電話や手紙のやり取りをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物や思い出の写真を飾り、居心地の良い環境作りを心掛けている。	小上がりには畳が敷かれ、廊下にも椅子が置かれ寛げるようになっている。大きいカレンダーや時計が配置され、メニューやお風呂の入浴予定表が掲示され、暮らしが実感できる。トイレ表示も見易く工夫され、室温・空調は、職員が心地よく管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下へソファとテーブルを設置したり、玄関先へベンチを置く事で、思い思いに過ごせる空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持ち込みをして頂き使い慣れた物や好みの物を居室へ置いて頂き、居心地の良い環境作りに努めている。	入口には利用者が選んだそれぞれの「のれん」が掛けられ、職員と共に作った表札が掛けられている。ベット、空気清浄機、エアコンが備え付けられていて職員が空調管理している。テレビなど持ち込まれ、家族の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、一人ひとりに合った生活を安全に過ごして頂けるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300091		
法人名	社会福祉法人 豊明会		
事業所名	グループホーム藤の木		
所在地	宮城県栗原市金成金生11番地		
自己評価作成日	平成25年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0491300091-00&PrefCd=04&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成25年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は田んぼや畑に囲まれ、四季の移り変わりが楽しめる、自然豊かな場所に設置されている。静かな環境の中で、個々のペースに合わせてゆったりと過ごされている。入所者様の意向を伺いながら、季節の行事、外出、買い物、慰問等様々な催し物を開催している。また地域の方々との交流も図られている。食事は栄養バランス、カロリー計算もされ、季節感のある入所者様に喜んでいただける様な食事作りを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームなどを経営する豊明会が2012年8月に開設した。季節ごとの外出行事が多彩で家族にも喜ばれている。施設への知人・家族・友人の訪問も多く関係継続の支援に努めている。職員のチームワークが良く、利用者の個人的買物の要望にも気軽に対応するなど信頼関係が築かれている。管理者と職員は外部研修や資格取得に熱心で介護力の向上に努めている。開設以来1年経過したばかりであるが、地域との協力関係を深めて利用者の地域生活の継続支援に反映していこうとする姿勢がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム藤の木 ）「ユニット名 栗駒 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エントランスと事務所に法人の基本理念を掲示している。	2012年8月開所以来、自由意思の尊重、楽しく安心して暮らせる家庭的な環境の提供などを掲げた法人の理念を、理事長とも折に触れ確認する。職員は理念を念頭にケアに活かすよう努めている。	地域生活の継続など地域密着型サービスの意義を踏まえてグループホーム独自の理念を職員全員で話し合って作り上げることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や地域の行事に参加し、交流を深めている。	利用者が町内会員登録している地区の区長より「お茶っこ会」などの行事案内があり参加している。小学校からも運動会の案内があり玉入れに参加した。ホームとして町内会への加入を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では機会を設ける事が出来ていない為、今後、どういう取り組みが出来るか検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を開催しており、市の担当者や利用者様にも出席して頂きご意見を頂いている。	市職員、地域包括職員、区長、民生委員、家族、利用者の参加で隔月開催している。ホームの運営状況、行事案内などを報告し、意見交換している。地域行事へのお誘いが増えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隔月で運営推進会議を開催しており、市の担当者にも出席して頂き、情報提供やご意見を頂いている。	市担当職員は、運営推進会議に出席して情報交換している。講座の講師など市への協力もしていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等の施錠をせず、自由に出入り出来る環境を作っている。 内部研修を行う事で職員の意識を高めている。	身体拘束など行動を制限する行為を行わないケアに努め、見守りしたり、散歩などに同行している。ホームに広い庭があり、気軽に散歩出来る環境にある。職員は内部研修を行い、近隣の理解と協力の大切さを痛感している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修をする事により、職員の虐待に対する知識を深め、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修をする事により、職員の権利擁護等についての知識を深め、利用者の権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、ご本人やご家族様に不安を与えないよう丁寧に説明し納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月で運営推進会議を実施している。現状報告しご家族や地域の方々に意見を求め、サービスに反映出来るように努めている。	年1回家族アンケートを実施し、意見・要望をスタッフ会議で検討し運営に活かしている。要望により「藤の木だより」を月1回発行し、ホームの様子を伝えている。運営推進会議や家族の来所時などにも要望や意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議にて議題を取り上げ、職員間で話し合い施設運営の向上を図っている。	全体会議で意見交換し、介護日誌の書式の改善などを実践に活かしている。会議録の回覧で全職員の意見が反映されるように工夫している。管理者は職員の資格取得にも積極的に介護の質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回パーソナルレポートを提出し、その後管理者との面談を行う。各自の希望等を踏まえながら職場の環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パーソナルレポートにて今後取得したい資格を掲げ、それに向けて個々の知識向上に努める。外部研修や月1回の内部研修に参加する事で職員の質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設等の外部研修に参加し、情報交換をする事により、お互いのサービス向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者様ご本人が望まれている事や要望を聞きながら、安心して生活出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見や要望を伺い、連絡を密に取り合いながら、サービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いの中で何を必要としているのか、何を求めているのかを見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴、環境、病歴等の情報や、ご本人の思い等を把握し、楽しく生活出来る環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月の様子を手紙にしご家族に伝え、些細な事でもお互いに情報を共有し合いながら、共にご本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加し交流を深めたり、ご家族、親戚、友人が来所し易い環境作りに努めている。	町内会行事への参加や自宅、美容院への外出、買い物などの支援をしている。家族・友人・知人の訪問も比較的多く関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様一人ひとりの個性や認知度を把握し、お互いに誤解やトラブルが発生しないように、必要に応じて職員が介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、継続しサービスが受けれる様に他事業所との連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望、意向を傾聴し、ケアカンファレンスにて情報を共有している。	利用者が希望を出し易い雰囲気を作っており、ラーメンやウナギを食いたいという外食の要望にも応えている。また、表情や動作などで意向を把握し、ケアカンファレンスで検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にケアマネージャーからの情報提供をお願いしている。また、ご自宅等に訪問し、ご本人様やご家族様から情報を提供していただき、経過等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌、ケース記録等で個々の様子を把握している。また些細な事でも職員間で情報が共有できる様、申し送りを徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを実地し、その意見や内容を介護計画に反映させている。	介護計画は、半年に1回、ケアカンファレンスで検討し見直し家族も確認している。毎月、各自の状況報告を「藤の木だより」、請求書、領収書と共に郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ケース記録に個々の体調変化、精神的変化を記録している。職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望やご家族の状況に合わせ柔軟に支援を行っている。個々の買い物、外出、通院等の支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会や催し物等に招待をいただき、参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望や要望が得られ、納得される医療機関を受診出来る様支援している。また月1回連携医療機関の回診がある。	ほとんどが協力医療機関の受診となっているが、希望するかかりつけ医受診には、情報提供書を準備し家族が同行している。受診結果、薬の状況、次回の受診日など家族と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関係医療機関の看護師と連携を取り、相談や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は主治医からの情報や、施設内での生活情報を提供し、ご本人にとってより良い医療が受けれる様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期や重度化した際の対応について話し合いをしているが書面としては残していない。また、重度化した際にご家族様から意向を聞き取りし対応する様にしている。	看取りの経験はまだない。家族と話し合いの上、関連施設や協力病院などへつなげる対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時マニュアル」を作成し、事故発生時や緊急時に備えている。外部からの「救急蘇生法」の講習会も行い、職員の意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回避難訓練を行っている。	避難訓練は、年2回夜間想定も含めて実施している。地域住民の参加協力までには至っていない。火災報知機、スプリンクラーは、完備されている。設備の点検は、年2回業者が実施し、訓練時、職員による使用方法の確認もしている。	火災、風水害、地震など緊急対応時マニュアルを整備し、訓練を重ねることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、入所の際にご本人、ご家族に同意を得ている。また入所者様の今までの生活環境、人格等を考慮し、傷付けたり不安にならない様な声掛けや対応を行っている。	プライバシー保持の方針を掲示し、入室の際には、許可を得て同行の上入室している。一人ひとりの人格を尊重し名前には「さん」をつけて声がけしている。プライバシー保持の職員研修を計画している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の活動や買い物、外出などご本人の希望や要望を考慮し、声掛け、対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や気分に合わせて過ごしていただいている。施設内での活動や外出もその都度ご本人に伺いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ洋服にならない様、また季節に合わせた洋服になる様声掛け支援を行っている。希望に応じて地域の理容所で散髪にいられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じていただける献立になる様、配慮している。入所者様の希望も取り入れたメニューで個々により食事形態を変え提供している。食事準備、盛りつけ、配膳等、個々に合わせた生活支援を行っている。	メニューは利用者の希望を取り入れ管理栄養士が作成し、食事の準備・片づけに利用者も参加している。和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。塩分制限のある方には別メニューで対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立に基づき調理を行っている。栄養バランス、カロリー計算もされ季節感のある食事となっている。毎食後摂取量をチェックし栄養管理に努めている。嗜好や病歴により代替にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に個々の口腔状態に合わせて、義歯洗浄、うがい、歯磨きを行なっている。ご自分で行なっていただく様、声掛け、支援をしている。定期的に訪問歯科の受診をし、口腔状態を把握すると共に口腔ケアの指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にチェックをしている。個々の排泄状態や排泄パターンを把握してトイレ誘導の声掛けを行い、トイレで排泄出来る様支援している。	ほぼ全員自立している。排泄記録をもとに声掛けしトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつに関しては、管理栄養士が献立をたてているので、乳製品や食物繊維等は提供出来ている。排便が困難な入所者様は、水分補給強化、また医師に相談して個々に合った下剤を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。個々に曜日は決めていたが、ご本人の体調や気分に合わせて入浴予定を変更している。入浴拒否の方については、時間を置く等して安心して入浴出来る様支援している。	週2回の入浴を基本にしている。各自の入浴予定表を掲示し確認合っている。一番風呂や熱めの風呂希望などにも対応している。菖蒲湯やゆず湯なども喜ばれている。日帰り温泉入浴の希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの体調や気分に合わせて、休養を促したり、活動や行事への参加の声掛けを行なっている。日中、夜間共に居室の温度、湿度管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診時、回診時の薬の処方や変更があった際は必ずケース記録に記入し、職員間で情報を共有している。薬は必ず職員が手渡し、服薬の確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、掃除、調理、洗濯、テーブル拭き等を行なっている。毎月誕生会や行事、外出等を企画して入所者様の交流を図り、楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や要望に合わせて、買い物、ドライブ等に出掛けている。	年間行事計画をもとに伊豆沼の「蓮の花」観賞、厳美溪見物、カッコウだんごを食べるなど外出を楽しみ、家族にも喜ばれている。スーパーやコンビニなどへの買い物、近所への散歩などの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員が管理し、ご本人から要望があれば一緒に買い物に出掛けたり、外出している。その都度出納帳に記入し、領収書を貼り、預かり金の管理に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった場合は、その内容により、ご本人や職員が連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者様が日中過ごされるホールは季節の飾りや写真を貼り皆で楽しんでいる。ホールからは、田畑や山が見え季節の移り変わりを感じる事が出来る。入所者様の居室には、その方らしい表札を掲示している。	小上がりには畳が敷かれ、廊下にも椅子が置かれ寛げるようになっている。大きいカレンダーや時計が配置され、メニューやお風呂の入浴予定表が掲示され、暮らしが実感できる。トイレ表示も見易く工夫され、室温・空調は、職員が心地よく管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、談話やお茶のみ、体操、テレビ鑑賞等をされている。廊下端にソファを設置し、外を眺めながらゆったりとした空間を設定している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリングで、ベット、エアコン、大きめのクローゼットは備え付けとなっている。個々にタンス、飾り物、写真等をご自宅から持参し、入所者様が不安にならない様に配慮している。	入口には利用者が選んだそれぞれの「のれん」が掛けられ、職員と共に作った表札が掛けられている。ベット、空気清浄機、エアコンが備え付けられていて職員が空調管理している。テレビなど持ち込まれ、家族の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室、ホールには手すりを設置し、転倒防止に努めている。トイレには入所者様がわかり易い様に表示をして安心して生活出来る空間を作っている。		